

◇ 1 事業報告 ◇

(1) 組織作り及び事業計画作成 4月18日(月) 柏崎市立第三中学校にて

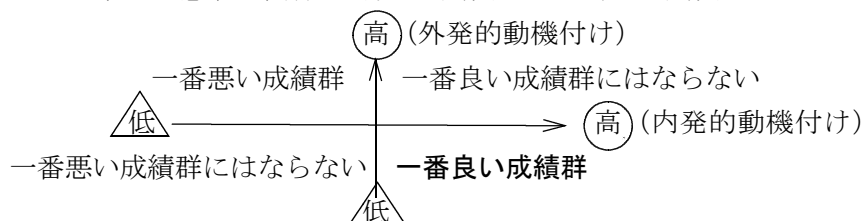
(2) 《教育講話研修会 ①》 9月30日(金) 柏崎市立教育センターにて

講師 文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導調査官 長田 徹 様

演題 「社会総がかりでの人づくり」

《講話の概要》

- 学力と意欲の関係～外発的動機付けと内発的動機付けについて



- 「いつか夢をかなえたい」「好きな授業がある」という前向きな答えの多い子どもの成績は良い。
- 学級担任が日常と授業を結んでいるか→学校での学習が日常に生きているか。
- 「こんな人になりたい」というゴールモデルをたくさんもっているかで、学習意欲に差が出る。
- これからの社会は、人口が減少し、仕事の質が変わる。日本の子どもたちは、社会参画の意識が低く、自己肯定感が低い。日本は、経済的にもシステムのにも低下してきている。活力ある社会の構築に奮闘する人と出会うことが重要である。
- 災害現場で学校が中心となって避難所を運営した時、地域がどれだけサポートに入ってくるか。学校と地域との日常的な関係が重要であり、柏崎スタイルの構築をしてほしい。

(3) 《教育講話研修会 ②》 11月17日(木) 柏崎市立教育センターにて

講師 前上越市立柿崎中学校長 神谷 敬二 様

演題 「見ようとしなければ、見えない差別」

《講話の概要》

- 人権にかかわる差別事例について
スポーツ界における差別、元ハンセン病患者への差別など
- 部落問題とは、被差別部落出身者に対する差別問題であり、現代社会における重大な社会問題である。同和地区と被差別部落は同じ



概念ではなく、行政によって指定された被差別部落が同和地区である。地区指定されず、同和对策事業が実施されていない被差別部落も多い。

部落問題の解決を図るためには、近世の身分制度について、その歴史的背景やその後の推移、近世封建社会での位置と役割、その生活と闘いなどを十分認識しておくことが重要である。

- まとめ
 - ・人権教育、同和教育は、差別する側のためにあり、当事者意識をもつことが大切である。
 - ・寝た子を正しく起こす必要がある。そのため、教員は研修を重ねていかななくてはならない。
 - ・見ようとしなければ(学ぼうとしなければ)、差別は見えてこない。

◇ 2 成果と課題 ◇

今年度も今日的課題である「防災教育」「人権教育、同和教育」の研修を行った。教育に携わる者としてこの課題をどう受け止めるか、改めて考えさせられた。児童と向き合うとき、教師の人間性が問われる。命や人権を最優先し大切にすることを念頭に置いた学校教育を展開する必要がある。

今後も、様々な分野で活躍される方からお話をいただき、学校運営を考える場としていきたい。